

令和8年度

施政方針

碧南市長 小池友妃子

始めに

令和8年市議会3月定例会の開催にあたり、令和8年度の施政方針並びに予算の趣旨について申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

碧南市はこれまで、高い財政力を背景に、市民負担をできる限り抑えながら、公共施設整備をはじめ、医療・福祉・教育等、暮らしを支える質の高い行政サービスを提供してまいりました。今日の碧南市の姿は、先人の先見性ある判断と、議会の皆様との積み重ねられた議論、そして、市民の皆様のご理解とご協力によって築かれてきたものであり、改めて深く敬意を表するものであります。

しかしながら近年、物価や人件費の高騰、公共施設の老朽化に伴う修繕費の増加、市民病院をはじめとする公営事業の経営環境の変化等により、本市の財政状況は大きな転換点を迎えております。現状を放置すれば、将来世代に過度な負担を残すことになりかねないとの強い危機感から、昨年、財政非常事態宣言を発出いたしました。

今、碧南市に求められているのは、困難な現実から目を背けることなく、課題を先送りせず、将来を見据えた責任ある選択を行うことです。持続可能な市民サービスを守り抜くためには、選択と集中を伴う行財政改革に全庁を挙げて取り組むことが必要不可欠であると考えております。

そして何よりも、この決断は、今を生きる私たちのためだけではなく、碧南で育つ子どもたち、これからこのまちを担う次の世代のためのものであります。将来、子どもたちが碧南市に誇りを持ち、安心して暮らし続けられるようにすることこそが、現世代に課された責任であると考えております。

厳しい判断を伴う市政運営ではありますが、だからこそ、皆様と力を合わせ、未来につながる碧南市を共につくっていきたいと考えております。

どうか本市の現状と将来を見据えた市政運営に対し、引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和8年度予算編成

令和8年度の予算編成にあたっては、大幅な歳入増加が見込まれず、物価高騰、扶助費及び人件費の増加等の歳出増加により大変厳しいものとなりました。財政非常事態宣言の「緊急行財政対策」に掲げる重点対策に取り組み、選択と集中によるメリハリのある効率的で効果的な予算編成を行いました。

この結果、一般会計の予算総額は、前年度当初予算額に対し、3.9%減の347億5千万円余となりました。その主な要因といたしましては、市民病院や下水道事業への基準外繰出しの削減、令和7年度に行った定額減税補足給付金支給事業がなくなったためであります。

歳入面におきまして、その根幹をなす市税では、総額で174億円余、前年度当初予算額に対し、金額にして2億6千万円余、率にして1.5%の減を見込みました。このうち個人市民税は、50億6千万円余、前年度当初予算額に対し、金額にして1億8千万円余、率にして3.7%の増であります。また、法人市民税は、16億3千万円余、前年度当初予算額に対し、金額にして4億5千万円余、率にして21.7%の減を見込んでおります。これは、臨海部大手企業による収益確保を期待するものの、減収を見込んだものであります。

また、固定資産税は、88億6千万円余、前年度当初予算額に対し、金額にして1千万円余、率にして0.2%の増を見込んでおります。

なお、事業推進のための財源不足につきましては、財政調整基金を始めとする基金の活用により対応してまいりますが、財政調整基金の繰入額は、12億3千万円余、前年度当初予算額に対し、金額にして7億1千万円余、率にして36.7%の減であります。引き続き厳しい状況となりました。

主要な施策

次に、歳出面につきまして、私の4年間の重点政策や第6次碧南市総合計画の施策の大綱に沿って、主要な施策を中心に申し上げます。

始めに重点政策として、

1つ目は、「夢や希望が描ける教育」でございます。

誰もが夢や希望を描くことができるようにするための金融経済教室を、出前講座の1つとして行ってまいります。また、愛知県が実施しているあいち奨学金返還支援の取り組み等の研究を進め、【碧南版】大学等奨学金返金支援制度の構築を目指してまいります。

次に、こどもたちへの教育に関して学校では、快適な教育環境を確保するとともに、大規模災害時の避難所としての機能強化のため、新川、南中学校屋内運動場に空調設備を設置し、令和9年度の設置に向け、中央、東、西端中学校の設計業務委託を行ってまいります。また、学習の基盤となる資質・能力として位置付けられた情報活用能力育成のため、引き続き小中学校でタブレットを活用した教育を実施してまいります。また、少年少女に「ものづくり」を通して科学的な興味、関心を追及する場である少年少女発明クラブが発足から20周年を迎えることから、20周年記念事業に協力してまいります。

2つ目は、「喜びを感じる子育て」でございます。

低年齢児の保育ニーズの増加、施設の老朽化等への対応として、築山保育園と大浜幼稚園を統合し、碧南伊勢土地地区画整理事業地内に民間の認定こども園を整備してまいります。

次に、全てのこどもの育ちを応援するため、新たに「乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）」を実施し、保護者の多様な働き方等にかかわらずい形での支援を強化してまいります。

次に、妊娠から出産、子育ての期間に寄り添い支援する「伴走型相談支援」と妊婦のための支援給付による「経済的支援」を一体的に実施し、切れ目のない子育て支援を行ってまいります。また、不妊治療費助成や産後ケア事業を実施し、少子化対策や出産前後の支援を行い、子育てしやすい環境を整備してまいります。

次に、国の小学校給食費の抜本的な負担軽減、いわゆる給食無償化事業により、小学校の給食費の保護者負担の軽減を図ります。

次に、高校生世代までの医療費完全無償化を引き続き行い、子どもの健康保持に寄与してまいります。

3つ目は、「チャレンジできる経済・産業」でございます。

市内商工業における企業活動の振興、地域経済の活性化及び賑わいの創出を図るため、初期投資、出展料等の一部を引き続き補助してまいります。

次に、週休2日制工事を推奨し、建設業の担い手確保を支援してまいります。

次に、観光事業を展開し、市内外からの観光客の誘致を図るとともに、大浜地区のてらまちを中心とした賑わいづくりを支援してまいります。

次に、認定農業者等が行う先進的農業経営設備の導入等、自らの農業経営の改善に資する取り組みに要する経費の一部を補助し、地域農業の担い手となる農業者の確保及び育成を図ってまいります。

次に、衣浦港を中心とした産業基盤のさらなる進展を図るため、国や県への働きかけを行ってまいります。また、衣浦みなとまつり花火大会を碧南市が主催となって開催してまいります。

次に、カーボンニュートラルの推進として、市内中小企業者が実施する省エネルギー設備、再生可能エネルギー設備の導入等に対して補助を行い、中小企業者のカーボンニュートラルへの取り組みを促してまいります。市民向けとしては、引き続き、既存住宅をZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）仕様に改修し、生活における省エネルギー化を促すための住宅省エネ改修補助事業、再生可能エネルギーの利用促進を図るためスマートハウス設備設置事業やゼロカーボンドライブの普及促進を図る次世代自動車購入費補助事業を行ってまいります。さらに、公共施設等の照明のLED化を引き続き進める等、ゼロカーボンシティ宣言に基づいた取り組みを継続してまいります。

次に、ふるさと応援寄附金制度の充実強化では、継続的に市内地場産品を全国にPRする機会を創出してまいります。また、寄附者に対し、本市の魅力や考え方、寄附金の使途等を掲載したPRチラシを発送し、寄附をきっかけとした交流人口や関係人口の増加を期待するとともに、将来的には本市への移住・定住促進に繋がるよう、引き続きお礼の品を通じて碧南市を全国に発信してまいります。

4つ目は、「**安心、安全な医療・福祉・介護**」でございます。

近年、困りごとが複雑化・複合化しやすく、解決が困難な生活課題を抱える世帯が増加しております。このような支援ニーズに対応するため、全ての困りごとに対応した相談支援体制を構築するとともに、社会参加に向けた支援及び居場所づくり等の地域づくりに向けた支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業を行ってまいります。また、地域包括ケアシステムの深化・推進の取り組みとして、医療・介護体制の効率化・高度化を図るため、介護施設等へ介護ロボット・ICTの導入に対する補助を行ってまいります。さらに、介護事業所の業務負担の軽減とサービスの質の向上を図るため、居宅介護サービス事業所等へケアプランデータ連携システムの導入にかかる費用を補助してまいります。

次に、市民活動センターを通じた市民活動、ボランティア活動の支援及び推進を図ってまいります。

次に、フレイル対策等、健康寿命の延伸施策につきましては、保健事業と介護予防の一体的実施事業を関係機関と連携し拡充してまいります。また、引き続き、筋トレルーム60を活用した高齢者の健康維持に取り組むとともに、すこやか健康講座やおたっしや大学を開催し、介護予防の普及啓発や健康教育を行ってまいります。

次に、地域福祉を推進していくために次期へきなん地域福祉ハッピープランを策定してまいります。また、障害福祉サービスの提供体制の確保等のために次期へきなん障害者ハーモニープランを策定してまいります。

5つ目は、「**命が守られる防災・減災**」でございます。

災害関連死を防ぐための避難所資機材並びに非常食及び飲料水等の災害備蓄品を保管するスペースを拡充するため、新たな防災倉庫を旭地区に建築し、大規模災害への備えを着実に強化してまいります。

次に、住宅地の整備や密集市街地の改善対策として狭あい道路の拡幅整備や空き家の除却、耐震改修等にかかる支援を継続し、安全な住宅市街地の形成に努めてまいります。また、碧南市における災害に強く持続可能な上水道の構築

に向け、碧南市上下水道耐震化計画及び社会資本総合整備計画に沿って、避難所等の重要給水施設に接続する上水道管路の耐震化を行ってまいります。

6つ目は、「**誰1人取り残さない持続可能なまちづくり**」でございます。

若者との対話や事業への参画の推進のため、HEXPO STAFF活動を通じ、各種イベントを企画し、青年層の活動の活発化と友好の輪を広げてまいります。

次に、新たに小中学校で医療的ケアを必要とする児童及び生徒の訪問看護サービスの利用料金を補助してまいります。

次に、手話等を用いた障害者とのコミュニケーションづくりの推進のため、新たに手話リンクの導入や手話ガイドブックの作成をしてまいります。また、引き続き、手話通訳者の設置、派遣及び養成並びに要約筆記者派遣を実施し、誰もがコミュニケーションを取ることでできる取り組みを行ってまいります。

7つ目は、「**未来へつなげる行財政改革**」でございます。

事業者が自由な発想や創意工夫等により市内における社会課題の解決や財政負担軽減等を提案し、民間活力を活用した民間提案制度を進めてまいります。

次に、公共施設等総合管理計画の見直しを行い、公共施設の今後の在り方について検討してまいります。

次に、市役所等の開庁時間の短縮に合わせ、電子申請やコンビニ交付サービスでの住民票等の交付をさらに普及促進をしてまいります。また、引き続き、各課窓口での手数料等の支払いにおいてキャッシュレス決済を行ってまいります。

次に、DXを活用した行政運営の効率化のため、生成AIの活用やRPAの活用をしてまいります。

8つ目は、「**今ある課題への取り組み**」でございます。

病院事業につきましては、コロナ禍以降医業収益は着実に回復基調であるものの、それ以上に当院を含む全国の公立病院では、長年に渡る診療報酬の抑制に加え物価高騰に伴う材料費や委託料、人事院勧告に伴う給与費等医業費用の増加が著しく赤字幅が増大し、運営に必要な保有現金は減少し続けている状況であります。このため、緊急行財政対策本部内に市民病院緊急経営対策会議を設置し、重点対策に掲げた医師及び非常勤医師の精査を始めとした3項目の検討事項を中心に多方面から抜本的な経営改善について検討を進めるとともに決定事項につきましては順次実施しているところであります。また、引き続き職員の接遇研修や利用しやすい院内環境の整備を通し利用者のサービス向上を図るとともに、公立病院としての役割を維持し市民に必要とされる市民病院を目指してまいります。

次に、少子化対策のため、結婚した世帯の新生活を経済的に支援する結婚新生活支援事業を引き続き行ってまいります。

次に、自動車を利用できない方の移動手段を確保するため、高齢者や障害者の外出手段の確保を目的としたタクシー料金の助成を継続し、社会参加の促進や家族の介護負担の軽減を図ってまいります。また、公共交通では、広く市民の交通手段として、くるくるバスを運行するとともに、ふれんどバスの運行を支援してまいります。

次に、名鉄北新川駅周辺地区において、駅を中心とした便利で快適に暮らせる市街地形成の推進のため、今年度は、基本計画及び測量業務委託を行い、北新川駅周辺の整備に向けて進めてまいります。

続いて、第6次碧南市総合計画の施策の大綱に沿った主要な事業を申し上げます。

「安心安全で住みやすいまち」として、

下水道事業につきましては、市街化区域の公共下水道工事が令和8年度で概ね完了するため、今後は事業の効率化を図り、持続可能で安定した運営を実現できるよう努めてまいります。また、近年の台風の大型化や集中豪雨に対する

浸水対策として、雨水排水施設の整備を進めてまいります。

次に、公園事業につきましては、施設の適切な維持管理に努め、利用者の安全な環境整備と長寿命化を図るため、計画的に更新を進めてまいります。

「人と文化が育ち・支え合うまち」として、

第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）のビーチバレーボール競技が9月に碧南緑地で開催予定であり、街全体の装飾や聖火リレーを行い、機運の醸成を図ってまいります。また、大会期間中には、臨海公園等で大会盛り上げイベントを行い、国際交流やまちの賑わいづくりに努めてまいります。

次に、海浜水族館では、「新しい人の流れづくり」を意識し、置き水槽改修工事を行ってまいります。また、26年ぶりに水族館技術者研究会を開催いたします。

次に、藤井達吉現代美術館では、企画展として、内間安理・俊子展、小林徳三郎展、笠井誠一展及び称名寺と時宗の宝物展等の開催を予定しております。

「都市の発展に向けた活力を生み出すまち」として、

都市基盤整備に関する施策では、道路景観等地域の魅力を高めるとともに利便性の向上のため、平成30年度から開始した（都）碧南駅前線の整備が完了いたします。また、長田橋の改修及び権現橋の修繕を実施し、道路施設の安全性と交通機能の向上を図るとともに、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

「ともに創る自立したまち」として、

碧南の夏を熱く盛り上げてきた市民まつり「元気ッス！へきなん」は、酷暑対策のため11月21日に開催し、新たな季節での盛り上がりを作ってまいります。

以上、令和8年度の主な施策につきまして申し述べました。

最後に

令和8年度は、財政非常事態宣言を発出してから初めて迎える予算編成となりました。本市の財政状況は極めて厳しく、市民サービスの見直しや、市民の皆様にご負担をお願いする内容も含まれております。この現実には、市長として強い責任と覚悟をもって向き合っております。

しかし、この困難な状況を、碧南市がもう一段強く、魅力あるまちへと進化するための転機にしたいと考えております。今まで当たり前としてきた考え方や仕組みを見直し、本当に大切なものを守り、未来につながる挑戦には果敢に踏み出す。そのための第一歩が、令和8年度予算であります。

厳しい見直しを行う一方で、民間提案制度など今この時代に必要な新たな取り組みや、将来への投資となる新規事業も盛り込んでおります。持続可能な行財政運営を確立することは、決して後ろ向きな選択ではありません。それは、人の力、地域の力を生かし、碧南市の魅力をさらに磨き上げていくための前向きな挑戦であります。

市議会の皆様、市民の皆様と真摯に向き合い、対話を重ねながら、このまちの未来を切り拓いていく決意です。決して市役所だけで進める市政ではありません。市民一人ひとりが、このまちを支える主役であると信じております。

どうか、市議会の皆様、市民の皆様のお力をお貸しください。

共に考え、共に悩み、共に乗り越えながら、次の世代に誇れる碧南市を一緒につくっていきましょう。

以上、施政方針といたします。